

日本⇄ブラジル両国間の短期滞在ビザ免除に関する日系ブラジル帰国研修員の声

2023年5月に日本⇄ブラジル両国間で短期滞在ビザの取得が漸く免除されることになり、後述のとおり8月12日付け朝日新聞にその記事が掲載されました。記事の中でブラジル日本文化福祉協会（文協）の事務局長で日系2世の中島エドアルド剛さんの言葉が引用されていることを目にした三木さん（元 KITA コースリーダーで、現在は価値創造経営研究所の代表）がブラジルの中島さんにコンタクトされたところ、以下のような返信を受け取られたとのことです。

<中島エドアルド剛さんから元 KITA コースリーダー三木さんへのメール返信>

三木義男様

こちらこそご無沙汰しております。いつものお元気なご発言に喜ばしく感動しました。日伯ビザ免除は両国市民における一世紀以上の様々な交流（移住、経済、文化）の実績に対して矛盾が長引いたと思います。今は日系社会としては日系4世労働ビザの問題で取り組んでいるところです。観光ビザ免除が日系4世ビザへの好影響となることを祈っています。私も今年の5月で文協勤務期間が20年となりました。

JICA、KITA、三木先生に学んだことを実行に向けて心掛けてきました。

今後とも益々お元気でお過ごしされることをお祈りしております。

中島エドアルド剛

実は2007年当時に地域活性化をテーマにした第1回の日系研修がJICA九州にて実施され、ブラジルより研修員3名を受入れ、当時 KITA コースリーダーをされていた三木さんが研修をリードされましたが、この来日メンバーに中島エドアルド剛さんがおられました。



2007年9月研修修了閉講式にて
(前列右端が中島さん、その隣が三木さん)



2007年研修中に響灘にて
(左端が中島さん、その隣が三木さん)

<<以下は 2023 年 8 月 12 日付け朝日新聞より抜粋>>

日・ブラジル ビザ免除 ～日系人社会、歓迎の声～

日本とブラジルの間で、90 日以内の観光や出張で双方の国を訪れる両国の国民に対し、査証(ビザ)が互いに免除されることになった。両国政府が 10 日までに発表した。ブラジルの日系人社会は南米最大規模の約 200 万人に上り、今回の決定を歓迎する声が広がっている。

「30 年以上前からビザを免除して欲しいと願っていた。『ようやく』という思いが強い」ブラジル日本文化福祉協会(文協)の事務局長で日系 2 世の中島エドアルド剛さん(63)はそう語る。広島大学に留学していた 1980 年代、韓国の釜山に旅行で訪れた。ブラジル人にとって韓国は、ビザなしで行ける国の一つだった。だがその後、仕事で数回日本を訪れているが、その都度ビザを取得する必要があった。「我々の祖国である日本からはビザを求められる。日系人とは日本にとって何なのか、強い違和感を持ち続けていた」

ブラジルが 2019 年 3 月に、日本など 4 カ国から来る短期滞在者にはビザの取得を免除する大統領令に署名。しかし、日本はブラジル人に対するビザを免除せず、「相互主義の原則」を重視するルラ政権が今年 3 月、ビザ免除をやめると表明した。しかし 5 月になって、岸田文雄首相がルラ大統領にブラジル人へのビザを免除すると表明。ブラジル政府も応じる形で相互に免除することが決まった。

中島さんはいう。「日本への理解が深い海外の日系社会は、日本にとっての大事な資産だ。ビザ免除の決定は、日系人にとって自らのルーツである日本に行きやすくなり、日本を好きになる人が増えるだろう」

(サンパウロ＝軽部理人)